

みんなで考える

住みやすい街、大学のある街

■発行：和田町タウンマネジメント協議会
 ■担当：高見沢実
 和田べんプロジェクト(猪原真理子)
 ■tel：045-339-4066
 ■mail：wadaben07@gmail.com

— 第60回目の協議会の概要 —

第60回協議会が1月17日(月)に開催されました。今回は、地域の方々に加えて、スタジオ★へそちくや神奈川県中小企業団体中央会の方々、横浜国大の教員・学生など計14名が参加しました。

協議会では、ワダヨコプロジェクトから、12月と1月の寺子屋のイベントについて報告があり、今後の運営方式(日程や広報の方法など)を協議しました。各プロジェクトの進捗報告の他、国大の大学入試時における商店街の対応などについて話し合い、**受験生向けに「頑張れ」の横断幕を設置したらどうか**などの案が出ました。

商店街の旬を学生に…

横浜国大の工学部棟では、毎昼、和田町商店街で作られたお弁当“和田べん”が販売されています。これは「和田町と大学をつなぎ、街を活性させよう」という想いで、7年前に国大生のアイデアから生まれた取り組みです。現在は、「ひまわり亭」と「神戸屋」が出店しています。

和田べんプロジェクトでは、学生にもっと和田町商店街の商品を知ってもらうため、現在の弁当販売だけでなく、他の商店にも協力を呼びかけて、**和田町商店街のいま“旬”な商品を学内で販売しよう**と考えました。その試みの第1弾として、「盛光堂」のご協力のもと、1月18日(火)～28日(金)の2週間で桜餅といちご大福を販売しました！

期間の後半には、学内で手作りの和菓子を食べられることが広まったのか、食後に買いに来る人が増えました。商品にはくじがついていて、**当たりの場合は、直接お店に行けば商品と引きかえることができます。**

今後もいろいろなお店の“旬”な商品を学内で販売する試みを広げて、学生が商店に立ち寄るきっかけを作れば良いと思います(^-^)



↑販売の様子。和田べんPJの活動も宣伝中！

「住みやすい都市」ってどんな街？

2月23日(水)に、ヨコハマ創造都市センターで、横浜国大地域実践教育研究センターが主催のシンポジウムが開かれます。当日は、1年間地域の課題解決に取り組んできた学生達の活動報告や、学識者による講演などをもとに、みんなで「住みやすい都市」について考えいきます。みなさんにとって、住みやすい街ってどんなところですか(^) 和田町を住みやすい街にしようと活動してきた、**本誌でもお馴染みの国大生のプロジェクト(*)も参加します。**

シンポジウムのテーマである「住みやすい都市」とはどんな街か、子育て、アート、海外の取組などさまざまな視点で考える機会です。ご興味のある方はぜひお越し下さい♪

(*)…ワダヨコプロジェクト/和田べんPJ/
 公共空間の活用とにぎわい作りPJなど



↑ 今年のシンポジウムの様子

— 編集後記 —

毎日手足が凍りつくような寒さが続きますね。

今月は、横浜国大での地域活動について取り上げました。大学があることで、日頃近隣住民の方にご迷惑をおかけしていることもあると思います。

そうした点は上手に解決し、**地域の中で大学がいかされるように取り組んでいきたいな、と**思いました(*^-*)

